

639 政治学会創立

〔『法学新報』第31巻4（352）号 大正10年4月1日〕

○政治学会創立 大正十年二月十一日紀元節の佳辰を卜し予て学生間に内議ありたる政治学会の創立を見る当日は雨天なるにも拘らず来会者定刻既に百有余名に及び来賓として本学教授稲田周之助先生並に天野徳也先生の御貴臨を辱ふす定刻に至るや劈頭に於て小菅豊次郎君開会の辞を述へて本会の創立されたる所以と其将来に対する希望と方針とを或は論し或は訴ふるや満堂之を賛し次て根本源一君を議長に推し猪野毛清君の決議文朗読あり其要に曰く〔(前略) 吾人学生は学窓に於て国家に須要なる学理の研究及其応用を修得し兼て人格の陶冶に志すと雖も現下内外の情勢を考へて我大日本帝国の國際上に於ける責任愈々重且つ大なるを思ふの時徒らに袖手傍觀するに忍びす而も黙する所以は学生たる本分を忠実に守ると輕挙事を為すに非る

とに因る即ち茲に考ふる所あり本会を創立して以て他日国家有用の人材を養成すると共に他日の大成を期するにあり云云」と読み来れば満場拍手を以て之に和す而して根本議長は茲に本会成立の旨を満堂に告げ又本会の指導者なるへからすとし會員を代表して稲田先生に本会会長たらんことを懇願したるに幸に御快諾を得會員一同欣喜雀躍せり次て會員の演説に移り林覺郎君「第四階級と立憲政治」と題して将来の立憲政治は普通選挙に依りて有終の美を濟す^(備カ)へく普通選挙は第四階級即ち労働者階級の力に待たざるへからすと論し次て新田宗盛君は「所感」と題して現下の政治問題經濟問題を論し正に午後三時なりき次に擬国会の際に於て保守党副總裁たりし清水春吉君は短軀なれとも悠悠逼らざる態度を以て壇上にあらはれ「此の現状如何」と題して現下政治の低級野卑を痛論して議會政治の改造を叫び議院の改造は結局選挙民の良心の改造に待たざるへからすと結びて拍手を得次て清水君に反対党なる民主党の總裁たりし坂井金藏君は「議會政治否定の思想と自我哲学を論す」と題して先づ政治と哲学との意義及び關係を明にして之を同君の自我哲学と結び付けて現下議會政治の非なる所以を論するや拍手する者野次る者あり恰も中央議會の觀を呈したりしか遂に議會政治否定の思想は先づ議會改造の思想に端を發すとし政治は元老より青年の手に移さざるへからす立憲政治は責任政治なれば人民の自治心に因りて初めて完全なる政治行はるへし云云と結論して降壇次に稲田先生より会長就任の挨拶あり會員より問はるるか儘に「日英同盟と國際聯盟との關係」「我國議會政治發達史」等

に付て詳細懇切なる講話あり当日先生には令息及び御親類中に御病氣の御方ありしにも拘らず午後五時過ぎまで御出てを願ひ會員一同の深く感謝して措く能はざる所なり次に天野先生には稻田先生の人物論を為して（先に稻田先生より余の生涯を好く知れるもの天野先生より外になしと云はれたるを以て）非常なる感動を与へ又東宮殿下御外遊に関し赤心を披瀝する所あり終りに議長たる根本君登壇先づ稻田天野両先生に本日の御貴臨を謝し次て政治学会の将来に対し充分の決心と抱負とを述べて會員の奮励努力を促す所あり最後に天野先生の発声にて天皇陛下の万歳並に政治学会の万歳を三唱して盛会裏に散会す時に午後八時過なり因に本会は大正十年の新学年より中央大学学友会の一部に属し会員は法学部経済学部商学部を問はず苟も政治に興味を有し他日政治家として国政に参与せんと欲する覚悟ある学生は之を歓迎するを以て各自平生の持論研究を發表し以て国家有為の人材たることを期することを得へし（魏堂生報）